

第1回いじめ問題対策連絡協議会で得られた主な意見等

これからの
検討内容

ネットいじめ防止等に向けた各関係機関・団体の連携
について

- ・家庭でのコミュニケーションを大切にいただき、子どもから保護者等に相談しやすい雰囲気づくりが大切である。
- ・大人と子ども、また、子ども同士の関係性を深め、学校と家庭と地域のネットワークも深めていくことがいじめ防止につながる。

- ・登校できない背景として、いじめ、友人や教職員との関係、親の養育姿勢、貧困、虐待、ヤングケアラーなどがあるが、周りに友人や大人など支えてくれる人がいると子どもは頑張れる。
- ・子どものSOSに教職員が気づき、その後の対応が適切に行われているのかどうか、組織としての対応はどうか気になるところである。

- ・いじめを乗り越えていくための練習を、さまざまなプログラムを通じて取り組んでいくことが、心の体力づくりになる。
- ・子どもは安心感が得られなければ、心の働きにより暴力等で自分を守ろうとすることがある。これらを回避するためにも、対立解消や仲裁のプログラムなどが重要になる。

- ・ネットの不適切な利用により、心身の発達にどのような影響があるかといった問題も子どもたち自身に考えさせることが大切である。

主に学校と家庭との連携、子どもへの成長支援についての意見が出された

いじめ問題を含
む生徒指導上の
諸課題の協議
について

- ・不登校など、学校の教育現場だけでは解決を図ることが難しく、広い意味で多様な子どもたちをどうサポートしていくかといった課題が多くなってきている。

⇒「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
(10月末公表)の結果を踏まえ第2回に協議する。

多様な子どもたちへの支援について

【資料3】
「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果について」

【資料4】
「いじめ防止対策等の総合的な推進」

【資料5】
「高知県におけるネットいじめに関する現状や課題」

【資料6】
「高知県における不登校への総合的な対応」

協議の視点：子どもの成長支援や安心できる居場所づくりのために関係機関でできること